

Future Design

～この手で未来を見つめて～

Vol.8

FIT-join2大企画密着!!

- ・新入生オリエンテーション
- ・学生企画運営
- ・学生アンケート

教員インタビュー特集
&

2024年度年間活動報告

「学生」と「教員」を
connectする団体を目指して

目次 ▼

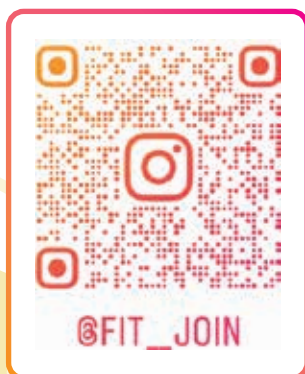
- P.2 目次・FIT-joinとは
- P.3 代表挨拶・メンバー紹介
- P.4 特集1～主な活動の報告～[新入生オリエンテーション・学生アンケート]
- P.8 特集2～教員インタビュー企画～[赤木先生・李先生・木下先生・劉先生]
- P.16 年間活動報告

FIT-joinとは

FIT-joinは本学の教育改善を学生の視点から教職員と一緒に考え、教職員と学生を“つなぐ”活動によって本学での「学びのコミュニティづくり」の役割を担っている団体です。私たちは、学生の本音を吸収し、学生が感じていることを教職員に伝え、また教職員が考えていることや課題を学生の視点から考え、それを学生に伝える存在として活動しています。



また、FIT-joinでは学生FD活動の広報を目的に、広報部門を設置し、Instagramによる情報発信を行っています。最新情報やイベント情報などはInstagramで発信していますので、ぜひフォローをお願いします。



https://www.instagram.com/fit_join/?_pwa=1

代表挨拶

2024年度FIT-join代表 近藤 佑亮



FIT-joinとは、本学の学生・教員・職員の3者を繋ぐことで、「学びのコミュニティ」をつくる活動を行っている団体です。今年度は40名ほどのメンバーが、私たち福工大生の学生生活や授業をより充実したものにしたいという思いを持って活動しています。

本団体では、新入生オリエンテーション、学生アンケート、Join-Talksなど様々なイベント・取組を行っています。今後も皆さんの学生生活がより充実したものにできるような活動や皆さんが楽しみながら学べるイベントを企画・開催していく予定です。

FIT-joinの活動へのご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。

メンバー紹介



●幹部

- ・代 表：近藤 佑亮（知能機械工学科 4年）
- ・副代表：板屋こころ（情報工学科 2年）
[2025年4月1日より代表]
- ・副代表：三橋 満咲（電気工学科 2年）
- ・副代表：有澤 優菜（情報工学科 1年）
- ・副代表：指方真羽人（電気工学科 1年）

●メンバー

- ・植田 響（生命環境化学科 1年）
- ・有富 功大（知能機械工学科 4年）
- ・大塚 佳知（知能機械工学科 2年）
- ・千賀 英（電気工学科 4年）
- ・高城 凛（電気工学科 4年）
- ・武田 直也（電気工学科 4年）
- ・高木真理奈（電気工学科 4年）
- ・島田 晃紀（電気工学科 1年）
- ・桃崎 圭志（電気工学科 1年）
- ・勝田 照平（情報工学科 4年）
- ・王丸 蓮（情報工学科 2年）
- ・宮崎 桜花（情報工学科 2年）
- ・鬼木 駈空（情報工学科 2年）
- ・田代 敦士（情報工学科 2年）
- ・米森 一真（情報工学科 2年）
- ・正崎 起士（情報工学科 2年）

- ・砂原 樹羅（情報工学科 2年）
- ・古野 雅輝（情報工学科 1年）
- ・大石 隼士（情報工学科 1年）
- ・嶋林 由芽（情報工学科 1年）
- ・井上 満瑠（情報工学科 1年）
- ・蒔田 佳典（情報工学科 1年）
- ・進村 拓馬（情報通信工学科 4年）
- ・村上 雄飛（情報通信工学科 1年）
- ・山口 晴歌（情報通信工学科 1年）
- ・山口 晴也（システムマネジメント学科 2年）
- ・今園 倫花（システムマネジメント学科 2年）
- ・渡邊 竣介（システムマネジメント学科 2年）
- ・谷口 寛太（社会環境学科 3年）
- ・工藤 心晴（社会環境学科 1年）
- ・佐藤光志朗（社会環境学科 1年）
- ・藤田 悠也（社会環境学科 1年）
- ・山本 幸輝（社会環境学科 1年）
- ・轟田 誠也（社会環境学科 1年）
- ・海老 功輔（社会環境学科 1年）
- ・辻田 敬梧（知能機械工学専攻 1年）

新入生オリエンテーション

今年も2024年度入学の新入生を歓迎するため、FIT-joinが中心となって新入生オリエンテーションの「友達作りの取組」を企画しました。企画会議は11月中旬からスタートし、15名でプロジェクトチームを組みました。

2024年度の新入生オリエンテーションの目的は、新入生に大学での自分の姿というものをイメージしてもらうこと、コミュニケーションを通して新入生同士の緊張を解きほぐすことです。どのような企画にすれば、新入生に楽しんでもらえるか、たくさん議論をしました。

新入生オリエンテーションの学生企画のプログラムはアイスブレイクと学内探検の構成にしました。今回の企画メンバーは1年生が多いため、自分たちが体験した新入生オリエンテーションを思い出しながら、どのようにしたら楽しくなるのか考えていきました。



■ プ ロ グ ラ ム ■

● アイスブレイク

アイスブレイクでは自己紹介・他己紹介・コミュニケーションゲームを行います。初対面の学生同士の緊張をほぐすためにはどのような内容がいいのか議論しました。前年度の新入生オリエンテーションでも行っているITOゲームを継続するのか、それとも、新しいゲームを行うのか議論を重ねました。



● 学内探検

学内探検では、新入生が学内を実際に回って場所を覚えてもらうことを目的にしています。かつ、チーム内での交流を深めてほしいとの思いから、どうしたらチーム内で協力して、学内を探検できるか考えました。その結果、探検内にクロスワードというミッションを考案しました。当日は、新入生に解いてもらうのをすごく楽しみにしていました。



● 企画した学生の振り返り

当日を終えて、新入生が楽しそうにしている様子や笑顔を見て、このプログラムが成功したと感じることが出来ました。以下に参加した新入生の感想を追記します。

< 学内探検アンケート結果 >

- 同じクラスの人たちと仲良くなれるきっかけ作りになってよかった。
- 新しい友達と協力しながらできた。
- 初対面の人とも交流することができ、その中で学校内を知ることが出来てとても楽しいプログラム内容でした。



学生アンケート結果報告

この結果はアンケートから立てた仮説の検証を行うためにいくつかの集計結果と組み合わせています。

FIT-joinの学生アンケートは学生がより良いキャンパスライフを送るために、学生の意見を教職員に届け、教職員と学生の架け橋になることを目的に行っています。さらに今年度は昨年度の課題を基に「動機づけ」「昨年度との比較」「学校改善」の3つを柱としてアンケートを実施しました。

FIT-joinの学生アンケートの結果から課題を抽出し、教職員にお願いと提案を行いました。

教職員へお願いと提案

お願い①：オフィスアワーの環境改善

提 案：講義室などを借りてオフィスアワーを行う

お願い②：テストの返却と解説

提 案：myFITやSharePointに解答・解説の提示

【2024年度FIT-join学生アンケート実施概要】

回答期間：2024年7月12日(金)～8月6日(火)

対 象：本学学生
(学部生・大学院生・短大生)

実施方法：Forms

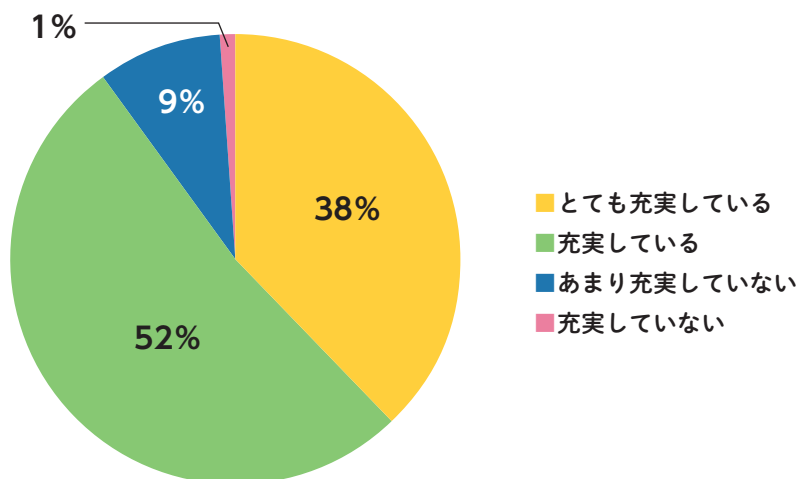
設 問 数：28問

回答件数：455件



現状として学生がどのくらい学生生活が充実しているのかを調査したところ、90%の学生が「とても充実している、充実している」と回答しており、多くの学生が充実している様子がうかがえました。その理由として、充実している学生は、「良い人間関係を築けているから」、「勉強しやすい環境が整っているから」との回答が多く、一方で充実していない学生は、「勉強が難しい」、「気軽に話せる人がいない」との回答が多かったことが分かりました。

現在の学生生活は充実していますか？



このことから、次の3つの仮説を基にアンケート分析を行いました。

仮説1. 大学生生活が充実している学生は自主的に様々なことに取り組んでいるのではないか（動機づけ）

仮説2. 大学生生活が充実している学生は先生や友人との交流が多いのではないか（人間関係）

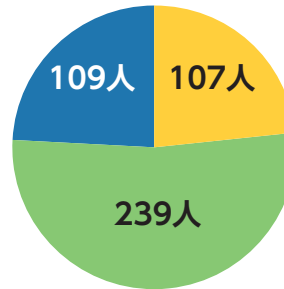
仮説3. 大学生生活が充実している学生は成績に不満がないのではないか（成績関係）

アンケート結果から見える課題

(1) 教員と学生との交流機会について

教員と学生との交流機会については、「オフィスアワーを利用したことがありますか」という質問に対し、「知っているが利用したことがない」、「オフィスアワーについて知らない」と回答した学生が回答者の76.5% (348人/455人) となっている他、「講義外で先生方に話に行ったり、相談したりすることはありますか」という質問に対しては、回答者の60% (273人/455人) が「ない」と回答しており、必ずしも多いとは言えない結果となりました。

オフィスアワーを利用したことがありますか。



- 知っているが利用したことがある
- 知っているが利用したことがない
- オフィスアワーについて知らない



(2) 成績評価・評価基準について

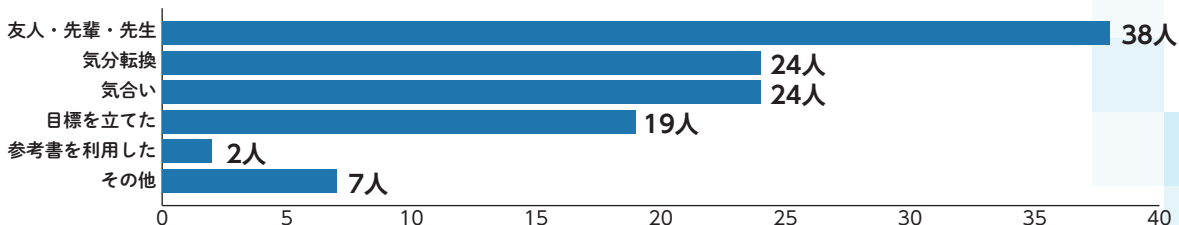
成績評価・評価基準に疑問や不満を感じているかについては、結果を経年で見てみると、回答者のうち2022年度38%、2023年度23%、2024年度47.9%の学生が成績評価・評価基準について何らかの疑問・不満を感じている結果となりました。その主な理由としては、「テストの返却がない」、「テストの解説がされていない」、「同じ科目でも教員によって評価基準が異なる」、「各提出物の点数が出されていない」という内容が上げられました。

教職員へのお願いと提案（根拠）

(1) オフィスアワーの環境改善

仮説2を基に、クロス分析を行った結果、「挫折経験を乗り越えた人は友人や先生のサポートがあった人が多かった」、「講義外で先生に話に行ったことのある人の学生生活の充実度はそうでない人に比べて高かった」、「学生生活が充実していない、かつ成績評価に不満がある人のオフィスアワーの利用度はそうでない人に比べて低かった」との結果が確認されました。大学生生活の充実度と人間関係（先生との交流）が動機づけに繋がっているのではないかと考え、改善策の一つとして、**オフィスアワーの環境を改善して学生が利用しやすくすること、その他相談や交流ができる機会を増やすこと、について提案しました。**

挫折経験のある人で挫折を乗り越えたきっかけ



(2) テストの返却や解説

仮説3を基に、クロス分析を行ったところ、「充実していないと回答した人ほど成績評価への不満度合が高い」ことが確認され、その中でも「テストや小テストの解説を必要としている」ことが分かりました。これについて、FIT-joinでは、テストの正誤がわからないまま、可否だけの結果では何ができて何ができなかったのか理解できないままとなって、次につながる科目の履修にも不安を抱えているのではないかと考えられることから、改めて**テストの返却と解説（例として、myFITやSharePointに解答・解説を提示するなど）を行っていただくようお願いしました。**

学生生活の充実度別による成績評価に不満がある理由

	1 位	2 位	3 位
充実している	テストや小テストが返却されていない	同じ科目で教員によって評価が異なる	解説がされていない
充実していない	テストや小テストが返却されていない	解説がされていない	同じ科目で教員によって評価が異なる

学生の皆さん、学生アンケートへのご回答ありがとうございました。

上記、教職員へのお願いと提案について教員アンケートを実施しました。

結果については今後学生の皆さんにフィードバックする予定です。

私たちFIT-joinは学生の意見を拾い続けるのでこれからもアンケートの回答よろしくお願いします。

赤木 紀之教授

学部・学科：工学部 生命環境化学科

研究分野：分子細胞生物学、幹細胞生物学

主な担当科目：生物化学Ⅰ・Ⅱ、細胞生物学、生命科学実験



1 Q 授業をするうえで大切にしていることは何ですか？

A

休憩時間を授業中に設けて雑談することを心がけています。90分間ガッツリ授業をすると、集中力が途切れて疲れてしまうので40~45分くらいに休憩を挟むようにしています。休憩時間では、1,2年生のうちから就職活動に向けてやれるべきことや社会に出るときに役立ちそうな話など、なるべく学生さんのためになるような雑談をしています。また1回の授業で5分程度の休憩があると5(分)×15(授業数)=75(分)の雑談時間を取ることができ、回数に分けることでみんな話を聞いてくれます。



2 Q 独自にInstagramやホームページを作成していますが、始めたきっかけは何ですか？

A

「セルフブランディング」の重要性に気がついたからです。「セルフブランディング」というのは、自分自身をブランディングしていくことです。自分自身をブランド化して発信することは我々教員にとっても、学生にとっても、今後の社会で活躍する上で重要なアプローチの一つです。今までは、組織の中の個人(例えば、福岡工業大学の赤木先生)という考えでしたが、今の時代は個人が活躍する時代になっているため、自分自身を売り込むセルフブランディングが重要になってくるわけです。セルフブランディングしていくためには、自分について発信していかなければならないため、SNS(Instagram)やホームページの作成を始めました。



3 Q なぜSNSでの情報発信に力を入れているのですか？

A

福工大を選んでくれる高校生や赤木研究室を選んでくれる学生、福工大生を採用してくれる企業を増やしたいという思いで発信しています。この3者をターゲットとして設定して魅力に気がついてもらうように頑張って発信しています。魅力に気がついてもらうことで、選択肢に入れてもらうことが大切だと考えています。



4 Q SNSを運用する上で意識していることは何ですか？

A

意識をしているのは、「軸を決めて発信する」ということです。その軸は、「福工大らしさ・赤木研らしさが伝わる」ということです。この

Instagramを見れば「福工大や赤木研ってこんなところなんだな」と一番いいところが伝わるようにしています。どこに伝えたいのか、ターゲット層を絞ることから始めています。また、情報発信で大切なのは「自分にとっては当たり前のことを丁寧に発信する」ということです。発信側にとっては当たり前かもしれませんが、閲覧者側にとっては新鮮な内容に映ることもあります。丁寧な発信をすることで閲覧者側にたくさんの魅力等が伝わると 생각합니다。



5 Q 先生の研究に対する活力、好奇心はどのようなことから湧いてくるものですか？

A

分らないことを見つけた時のワクワク感、その謎が解けた時の達成感、そして「もしかして、これを発見したのは世界で自分が初めてかもしれない」という優越感。それらの経験があるからこそ、さらにそれを目指して研究を続けています。

例えば、細胞を培養していて、ある薬を投与するとほとんどの細胞が死滅するのに、特定の細胞だけが死ななかったとします。そこから、「なぜこの細胞は死なないのか？何か特別なメカニズムがあるのではないかと考え、研究を始めます。そして、「この細胞はある遺伝子に変異があるため、薬が効かなかったんだ」と分かった時の感覚——「このことを知っているのは今のところ世界で自分だけかもしれない」というワクワク感、達成感、優越感が、私の活力の源です。



6 Q 就職に強い福工大と言われますが、先生は就職ではなく福工大や他大学の大学院への進学を推薦したいですか？

A

全員が全員大学院に進学した方がいいとは思っていません。大学院では、研究活動を通して思考の言語化や思考の可視化の訓練ができます。研究活動とそのようなスキルアップの両方したい人は進学したらいいと思います。

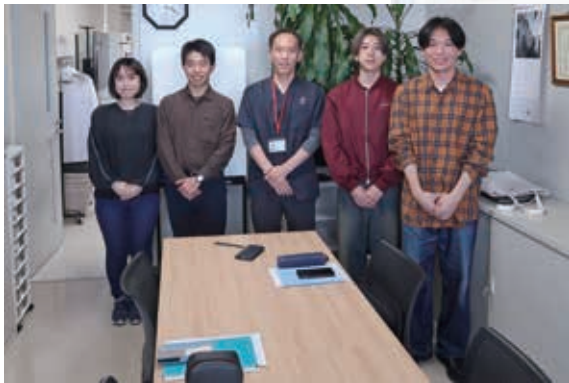


7 Q FIT-joinについてどんな印象を持っていますか？

A

こういう団体をもっと福岡工業大学で活躍して欲しいと思っています。

今、私立大学は学生集めに力を入れており、教職員はどうすれば高校生や保護者が福岡工業大学を選んでくれるのか、どういうアピールをすればいいのか一生懸命考えています。ぜひ、学生目線での意見を出していただき、FIT-join自体が本学のアピールポイントになるような活動を続けてくれるといいなと思います。



8 Q 学生時代に頑張ったことはありますか？

A バイトや飲み会、BBQに参加するごく普通の大学生でした。勉強をして、成績を上げることには注力していました。他に特別なことはしていませんでしたが、英語の論文を書きたいという強い思いがあったので卒業論文は英語で書きました。1年の時から英語の勉強していたわけでも資格等の勉強をしていたわけでもなかったです。

バイトが家庭教師や塾教師が多かったためもう少し社会経験をしたり、別の世界を見たりしてもよかったかなと思っています。

9 Q 座右の銘は何ですか？

A Life is hard, but we are harder. (人生は大変だ、しかし我々はもっと強い。)
Defeat makes us stronger. (敗北は私たちを強くする。)

Those who live in caves never see the sunlight. (洞窟に住んでいる人は決して太陽の光を見ることはない。)

これらは、アメリカ留学中に研究がうまくいかない時、研究室の先生からいただいた言葉です。この言葉をととても大切にしており、赤木研のホームページにも掲載しています。解釈は人それぞれですが、多くの人は自分の“コンフォートゾーン”（心地よい場所）から出たがらない傾向があります。たとえば就職活動においても、福岡から離れたがらない人が多いですが、一歩外に出ればもっと広い世界が広がっています。ぜひ外の世界を見てほしいと思います。

10 Q 日常で大変だと思うことは何ですか？また普段のリフレッシュ方法などがあれば教えてください。

A 1日のルーティンワークの中の忙しいとき以外に大変だと思うことはありません。

しかし、長い目で見ると人生を切り開くことは大変だと思います。自分が人生を切り開くなかで、大変だと思った瞬間は修士課程2年時の就職活動をしていた時です。はじめは製薬会社に就職して会社で研究して博士を取るつもりでした。しかし、なかなか民間企業とはご縁を頂けず、博士課程まで行って研究を極めることにしました。

リフレッシュ方法はコーヒー豆を挽くところから淹れて飲んだり、観葉植物鑑賞、ジムでほぼ毎日2時間ほどトレーニングをすることです。

11 Q 学生に大学で学んでほしいことは何ですか？

A 「知らないことに、気づいていない状態」から「知らないことに、気づいている状態」にしてほしいと思います。生きていくうえで、税金の問題や法律など学生の皆さんが知らないことばかりで、色々なルールの存在さえも知らない（存在を気づいていない）と思います。これが「知らないことに気づいていない状態」です。ですので、社会のこと、経済のこと、健康のことなど、最初は理解しなくてもいいので、「自分はここまで知らないのか」とまずは知らないことにちゃんと気づいている状態にしてほしいです。

感想

電気工学科4年 千賀 英

授業のときに休憩時間を設け、学生のためにアドバイスをしてくださることで、学生の不安や知らなかったことを早いうちから知ることができ、学生の気持ちを第一にしてくれていると感動しました。また私自身も「知らないことに気づいていない状態」なことが多々あると思ったので、色々なことに興味を持ち、日々過ごしていきたいと思いました。

生命環境化学科1年 植田 響

自分は1年生なので、まだ大学院などを考えてはいなかったが、将来の選択肢の1つとしてしっかり考えさせられる興味深い話を聞くことができたのでよかったです。

知能機械工学科4年 近藤 佑亮

今回のインタビューを通して、知らないことに気付いている状態にする大切さを学ぶことができました。また、授業中の雑談やSNSでの情報発信に関するお話を聞いて、赤木先生の人気の秘訣を知ることができました。SNSでの発信の際に意識すべき点なども勉強できたので、FIT-joinでの情報発信の際に活かしたいと思います。

電気工学科4年 高木真理奈

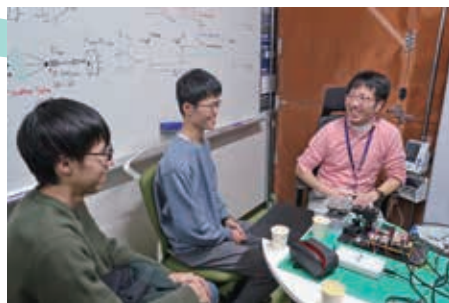
今回の教員インタビューが初参加でしたが、自分の所属外の学科の先生とお話するという貴重な経験ができました。また、事前に準備していた質問以外にも気軽に答えていただくことができて、赤木先生の大切にされている学生との距離感を実感することができました。

李 知炯 助教

学部・学科：情報工学部 情報システム工学科

研究分野：生体システム工学

主な担当科目：電気工学基礎、生体情報計測学、センサ情報処理、
情報システム工学概論、情報システム工学実験Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ



1 Q 授業をするうえで一番大切にしていることはなんですか。

A 授業で一番大切にしていることは、学生の考える力を育むことと思っています。学生の考えを尊重し、考えることの大切さを伝えています。私は学生時代にモノづくりの大会の展示会に参加をして、何かを生み出すには、自分で判断をして、自分で解決することが非常に大切だなと感じました。私が受け持っている科目の生体情報計測学もそうですが、学生が自分で考えて意見を出すことを重視しているので、授業の中では答えや正解を出すことだけではなく、学生が自分で考え、意見を出すことを重視しています。特にグループ活動や個別のサポートを通じて、考える力を伸ばすよう努めています。

2 Q 先生の研究分野の魅力はどこでしょうか？

A 私の研究分野の魅力は、人や世の中が良くなり、より安全になることにつながるところだと思っています。私は大学時代に学生会長や、軍隊では部隊長をしていたので、ずっとリーダーみたいなことをしているからと思うのですが、自分が輝くことよりも、私の周りが輝いた方がすごくいいなということを感じました。もっと技術が進んだり、良くなったり、私がこの研究をしていることで、誰かが幸せになってくれることが研究して魅力を感じるっていうところでもあります。

3 Q 研究内容が社会にどのような影響を与えていると考えていますか？

A 研究内容が社会に与える影響について、私からは明確に言えないですが、研究の技術やアイデアを社会に展開するのは企業の役割だと考えています。自分の周辺には影響を及ぼすと思いますが、社会は大きいので教員一人では無理です。力の合わせ方によって社会に与える影響は変わると 생각합니다。現在の研究は、指を当てるだけで飲酒状態や血糖値を検査でき、自身で体調管理が容易になる技術の開発を目指しています。共同研究で役割分担をしながら進めています。

4 Q 先生は研究を通して、現代社会のどんな課題を解決したいですか。

A 私が考える現在社会の問題点の一つは医療費の増加です。2018年度のデータでは一人当たり年間38万円の医療費がかかっていることが分かりました。これが結構危機的状況ではないかと私は思っています。高齢化社会によってこれからますます医療費が増加し、そうすると将来的に税金の負担が増える可能性があ

ります。解決策の一つとして、国民が健康管理をしっかり行うことで医療費を抑えることができるのではないかと考えます。デジタル技術（DX）を活用して効率的な健康管理や状況を可視化することが出来れば大きな病気を減らすことが出来ると思います。

もちろん、医療だけではなく、研究を通して様々な分野の課題の解決ができると思います。

5 Q 本学の教育と学生の学ぶ姿勢についてどのように思いますか。

A 本学では、先生方が時代に合わせた科目やカリキュラムなどの検討を行っており、工夫をしている点がいいと思います。学生に関しては、福工大の学生は純粋な学生が多く、先生が言った通りにという学生が結構多いと思います。学生が先生の指示通りに動くことは良い面もありますが、自分で考えて行動することも重要です。大学では専門知識だけでなく、視野を広げることも学べます。既存の意識に縛られすぎず、自分の考えを持って学んでほしいという気持ちもあります。

そのために、教員の役割は学生に知識を与えるだけでなく、学生が外で自立できるようにサポートすることが大切だと思います。

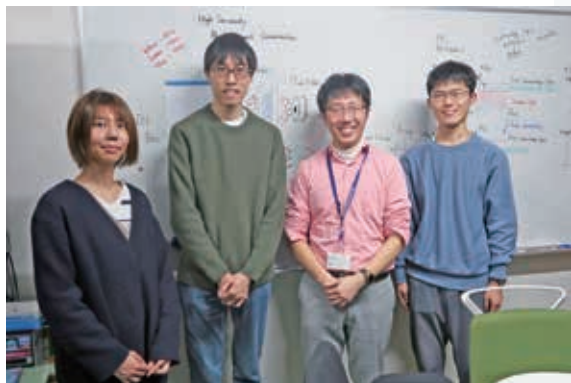
6 Q 先生の座右の銘または好きな言葉は何ですか？

A 私の好きな言葉は「I'm possible」です。この言葉は面接でよく使った言葉で、不可能を英語にするとimpossibleですが、点をつつけるとI'm possibleとなります。博士の面接でも日本語が話せず英語だけで受けて、先生は日本語が話せるようになると思ってなかったかもしれませんが、話せるようになりました。また以前の大学では私なら可能にしますと説得して研究費を増やしてもらいました。その分責任感を持ってやりましたが、今まで有名な先生方でもできなかったことをやって見せたのです。そのため、私は不可能を可能にする人になりたいと思っています。

私は今の学生も自信をもって進んだ方がいいと思います。生意気になるのではなく、自分の見せたい強みをしっかり見せられるようになることが重要だと思います。

7 Q 子供の頃の夢を教えてください。

A 幼少期は警察官や消防士になりたいと言っていたのですが、中学生の時に先生に見せてもらった記録本に科学について先生方の意見が書かれてあり、この経験から科学に興味を持ち始めました。それから自分で水力ロケットを制作し、飛ばしていました。高校の時に日本に来て複数の施設を見学し、その中のNECで体についてのことについて詳しく計算する等の体験をしました。日本を訪れた経験が現在の研究に繋がっています。最初か



ら研究者になろうとしなかったことは結果的に多くのことを経験でき、今まで出会った先生方は恩人です。

あと人生迷いも多かったですが、試行錯誤しながら何かに取り組んだら、自分に合っていることが見つかって、そこから夢につながっていくのではないかなと思います。

8 Q 尊敬する人物について教えてください。

A 私が尊敬する人物はイチロー選手です。メジャーに挑戦する日本人が少ない中で、彼のチャレンジ精神に感銘を受けました。イチロー選手の自分に厳しい姿勢から多くを学び、自分もそれを見習って謙虚であることを心掛けています。

9 Q レポートや課題などの採点で気を付けていることはありますか？また解説の時に工夫していることはありますか？

A レポートや課題の採点には、時間をかけてきちんと手順を見て、「その学生が本当に理解できているのか」ということを確認して、努力している学生に不利益が出ないように気を付けています。ただその問題に対する答えが合っているだけ、つまり解法が間違えていたり、記述されていなかったりした場合は、評価は低くつけています。答えが合っていて、更にその解法がしっかりと考えて作られているものであれば、高い評価をつけるようにしています。

また、解説の際には、すべてを学生に教えるということをしないうちにしています。授業アンケート等では、しっかりと解説をしてほしいという意見が挙がることもありますが、大切なのは学生自身がしっかりと考えることだと思います。全てを教えてしまうと学生の考えるチャンスを奪うことに繋がるので、そうならないように心掛けています。

10 Q 先生のこれからの目標を教えてください。

A 私のこれからの目標は、「今日よりもいい明日をつくる」ということです。人間は、AIではないので、様々なことを予測したり、考えたりすることができません。しかし、未来は誰にもわからないと思います。だから私は、明日は今日よりも成長したい、そして、もっと楽しい明日をつくらうと思っています。

11 Q FIT-joinが学生と教職員をつなげる活動をしているのですが、先生が学生と取り組んでみたいことはありますか？また、学生に取り組んでほしいことはありますか？

A 学生が教員の共同研究などで企業と打ち合わせをする際に、もっと深く入ってほしいと思っています。学生は先生に従って行動するということが多く見受けられます。だから、企画やイベント等を学生

が主体となって開催してほしい気持ちもあります。そういった中で新しい先生に出会うこともあり、そこから始まる研究や交流、関係性もあると思います。今は、学生主催のイベントや情報交流会が非常に少ないと思うので、そういった機会を増やすところから始めていけたらいいと思っています。

12 Q 学生に大学で学んでおいてほしいことは何ですか？

A 学生に大学時代で学んでおいてほしいことは、人生です。もちろん、専門知識や英語などの言語、研究活動など様々なことを学んでほしいと思っています。しかし、社会に出たときに嫌なことや面白くないこと等がたくさんあると思います。それらを受け入れ、工夫して乗り越えていく必要があります。これは非常に重要なことなので、大学在学中にしっかりと学んでほしいと思います。

13 Q 就職のために自分の強みを見つけるにはどのような工夫をしたらいいですか？

A 最初は目標や自分の強みについて書くことができないのではないのでしょうか。私も昔はそうでした。そんな時は色々な経験をしてください。興味があることや自分が笑顔になることをちょっと多めに時間を取りながら探してみてください。多くの経験をする中で自分の気持ちに気づきを与え、自分の強みが見つかるのではないのでしょうか。アルバイトでお金の稼ぎ方を学びながら、両親に頼りながら自分探しの旅に行くのも良いと思います。本当に人生何が起るのか、将来何になるか誰にも分からないですから学生時代は色々な人と話したり、確かめてみたりなどの経験を増やすことを勧めます。

感想

情報工学科2年 米森 一真

今回インタビューを通して、先生の学生や研究に対する熱意を感じることが出来ました。自分もそんな先生方に負けなように勉学に励みたいと思いました。

知能機械工学科2年 大塚 佳知

どうしたら学生の力を伸ばせる授業を行えるのかを常に考えて工夫し続けていることや研究では現状の問題についての考えを聞き、学生だけでなく研究が成功することで救える人々への想いが強い、すてきな先生だと感じました。

情報工学科1年 井上 満瑠

李先生の授業や学生への熱意、また、先生自身の人生などもお聞きして、すごく興味深かったです。座右の銘「I'm-possible (自分は可能性を持っている)」にすごく感銘を受けました。改めて李先生にインタビューができて本当に良かったです。

木下 健准教授

学部・学科：社会環境学部 社会環境学科

研究分野：政治学

主な担当科目：政治学Ⅰ、政治学Ⅱ、行政学、地方自治論、法・政策の諸問題



1 Q 授業をするうえで大切にしていることは何ですか？

A

教科書レベルよりも少し難度の高い情報を入れるようにしています。大学は教育機関であるとともに研究機関でもあるため、最新の研究に関する要素を取り入れるようにしています。教科書があるものの、内容がアップデートされていないものや、研究の偏りがあるため、自分の研究や最新の論文の情報も入れることで、学生に少しでも興味を持ってもらいたいと思っています。



2 Q 政治に興味をもったきっかけは何ですか？

A

大学院修士時代に研究テーマを決まるときに、指導教授（武蔵勝宏先生）の論文を読んだことがきっかけです。それまでは法律の勉強していたこともあり、政治学研究への興味は全くありませんでした。その武蔵先生の論文には、政治のダイナミズムが描かれており、その描写の面白さにひかれ、政治の奥深さを認識するようになりました。



3 Q 研究の道に進み、研究職に就いたのはなぜですか。

A

司法書士試験に2回連続で落ちたのがきっかけです。研究の道に進む前は、司法書士を目指して法律の勉強をしていました。しかし、何かよく知られていないことを探求することや、真理を見出すこと、それに未知の領域を自分で明らかにするという研究の面白さに気づき方向転換しました。



4 Q 政治学の重要性はどこにあると思いますか？

A

政治学を学ぶことで、社会の構造を理解し、世の中を見通す幅広い視点を得られるところにあると考えています。社会に出ると税負担をはじめ、実生活



5 Q 学生が現代の政治とどのように向き合うべきだとお考えですか？

A

今の日本は少数与党政権になっています。長らく自民党・公明党の連立政権が続いてきたため、政治の変化を感じられにくかった状況が一変しました。こうした政治の変動期は、政治改革が進むだけでなく、野党の政策に対する影響力が強まることで起こる、政治の変化が起こりますので、それを感じ取ってもらいたいと思っています。その上で、自分の政策態度や価値観を改めて見つめ直し、より良い政治となるように、有権者として政治に関与してもらいたいと思っています。



6 Q これだけは負けないっていう自分の特技や特徴はありますか？

A

料理と麻雀です。大学院生時代に一人暮らしをしていて、お金を節約するために自炊を始めました。その習慣が今でも続いていて、日頃から自分で料理を作っています。また、麻雀は子供のころから家族でずっとやっていた。最近は研究が忙しくてあまり出来ていませんが、学生時代は友達に負けた記憶はありません。



7 Q 座右の銘は何ですか？

A

乾坤一擲です。これは自分の運命を掛けて勝負に出ることを意味します。これは趣味の麻雀からもってきていますが、通す筋だという心持ちが大事だと思います。麻雀だけでなく、自分の人生も勝負であると思っています。失敗を恐れずに、何事にも挑戦することが大事です。



8 Q 普段の生活で授業、研究に どのくらい時間を使っていますか？

A 最近は授業や研究以外の学科の運営に追われていて、研究の時間は週に2～3時間取れるかどうかです。ほかの先生方がどのように研究時間を確保しているか知りたいくらいです。そのため夏休みなどの長期休暇を利用して、論文執筆など研究に専念しています。

9 Q 自分自身のために勉強している 事とその内容について 教えてください。

A 英語と投資の勉強です。出張で英語圏に行く機会がありますが、英語はどの国に行ってもほとんど通じるため重要であると思っています。リスニング・スピーキングが少しでも出来るように英語に触れるようにしています。また、投資は人生を豊かにすると思っており、政治学とも密接な関係があるため勉強しています。

10 Q 学生が付加価値を上げるためには どのような経験や活動が 必要だと思いますか？

A 起業や留学をすることだと思います。起業が難しくても、ベンチャー企業ヘインターンシップに行くこと等で経験することができるはずです。私も大学時代に留学をしておけばよかったと感じています。留学が難しい場合でも、長期休暇に2週間でも海外に行くことも貴重な経験となると思います。

11 Q 学生に大学で学んでおいて ほしいことは何ですか？

A 今の時代には一概にこれというのは、多くないと思います。大学は社会に出る前の学びの時間であり、就活においてはどのように自分を社会に売り込むかが鍵となると思います。そこで、学生には自分の得意・不得意に合わせて、自分のスキルを伸ばし、社会に役立つ能力を磨いていくべきと考えています。得意とする分野であれば、自分の持つスキルを十分に把握できているため伸びやすいです。その力を社会にアピールできるように得意分野を突き詰めてほしいと思います。

感想

社会環境学科4年 谷口 寛太

大学時代は、自分を社会に売り込む材料集めの時間だというお話にすごく共感しました。就活を進めていると得意分野でアピールできる点があることは強い武器だと実感しています。残された1年は、社会で活躍するために長所を伸ばす時間にしていきたいです。

知能機械工学科2年 大塚 佳知

忙しくても授業や研究のために勉強を続けており、インタビューの中では学生に対する想いを熱く語られていました。今回のインタビューを通して木下先生は真面目で学生想いの先生だと思いました。

情報工学科1年 嶋林 由芽

普段あまり関わりのない他学科の話を伺う中で自分の学科以外のことにも興味を持つことができ、良い経験になりました。また行動することの重要性を改めて痛感したので、興味を持ったことには迷わず積極的に関わることで、今後の大学生活を自己成長のためのより良い期間となるよう行動しようと思いました。

劉 莎助教

学部・学科：教養力育成センター

研究分野：英語学

主な担当科目：英語科目



Q1 授業をするうえで大切にしていることはなんですか

A

学生との交流を大切にしています。そして、学生が英語に対してやる気や興味が出るようにしています。さらに、勉強した内容を忘れないように復習することも大切にしています。やる気、興味、練習をキーワードにして授業をしています。



Q2 先生が考える英語の魅力と英語が及ぼす影響について考えをお聞かせください。

A

英語は厳密に言えば世界共通語ではありませんが、ほぼ共通語として使われています。ですから、英語が出来れば色々な国の人とコミュニケーションをとって自分の視野を広げることができます。例えば、科学技術の領域の人々は英語を用いてコミュニケーションとすることで最新技術の発展につながります。これが英語の影響力かなと思っています。



Q3 先生が英語学を学ぼうと思ったきっかけは何ですか？

A

ずいぶん前の話ですが、高等学校の頃、数学と英語が得意でした。そして、英語が出来れば色々な国の人とコミュニケーションがとれますし、色々な国にも行けます。ですので、もう少し英語について勉強したいと思ったことがきっかけです。



Q4 先生が大学で教員や研究職に就こうと思ったきっかけは何ですか？

A

私は小学5年生から英語の勉強を始めました。そこから博士が終わって、つまり博士後期が終わったら17年ぐらい英語を勉強した経験が残りました。この経験を学生たちに伝えられたら良いなと思ったのが最初のきっかけです。そして学生たちにコツやスキルを教えて学生の成長が見られたらとてもうれしいです。同

時に私も色々勉強したり、研究を続けたり、私も学生と共に成長することができている、少なくとも私はそう感じています（笑）。学生さんの成長を見る事で「うれしい」という感情が得られるというのもきっかけの一つだと思います。



Q5 教養力育成センターでの業務内容について教えてください

A

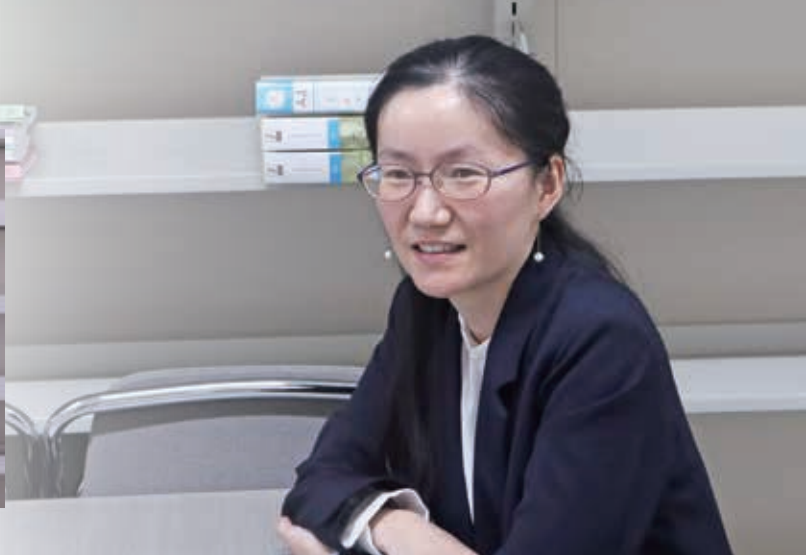
教養力育成科目の授業、海外研修の引率、学内の委員会、学内の英語スピーチコンテストのジャッジ、学内イベントの支援や参加などがあります。たくさんあるように思えますが、「できない、無理」ということはなく、頑張るやる気持ちで取り組んでいます。



Q6 挫折した経験がありますか？あればどのように乗り越えたかおしえてください。

A

もちろんあります。博士論文を作成していた時期に半分ほど論文を書いた時に最後まで書き続けられないと思いました。私はその時、散歩をして自然の中に行ってリラックスしたりすることで気分転換をしました。気分転換をして気持ちの切り替えができたなら、自分自身とあきらめないことを約束し、少しずつ毎日1行でもいいので進めることにしました。どんなに遅くても大丈夫です。また、あきらめることをやめました。私の場合は大学の先生で、育児と研究と教育をこなしている方がいたのでその先生をロールモデルとして意識しました。その先生がたくさん頑張っている姿を見ると、私は博士論文くらいならできると思いました。また、周りの家族や指導教員、友達や先輩の支えも大事だと思いました。そのおかげで、何とか博士論文を書き終えることができました。完成したら自分は前の自分よりも少し強くなっている気がしました。



7 Q 学生に対して教員が果たすべき役割について教えてください。

A 勉強の指導教員としての役割。学生の悩みを聞く人、相談できる人になることが大切だと思います。

8 Q 趣味は何ですか？

A 映画鑑賞やドラマ鑑賞、旅行が趣味です。（旅行は高いです笑）最近、アメリカやイギリスの映画やドラマを見ています。また、日本のドラマやニュースも見ています。

9 Q 行ってみたい国や好きな国はありますか？

A 行ったことがない国には基本全部行ってみたいです。アジアではベトナムやタイに、離れたところであればフィンランドやノルウェーに行ってみたくて考えています。可能であれば世界一周回ってみたいです。好きな国については、韓国、シンガポール、フランス、スイス、ドイツに行ったことがあり、どこもう一度行ってみたいと思っています。韓国、シンガポールの料理はアジア人の口によく合っていると思います。フランスのプロバンスはラベンダーがとても綺麗で、パリもとても素敵でした。また、スイスは物語の中の国の雰囲気があり、ドイツも綺麗で食べ物もおいしかったです。

10 Q 座右の銘は何ですか？

A 「少しずつ前に進もう」です。遅くとも前進するのが大切で、諦めずに少しずつ前に進めれば大丈夫です。

11 Q 学生に大学で学んでおいてほしいことはなんですか？

A 自分のこれからの就職や人生の基盤になると思うので、自分の専門知識とスキルはとても大事だと思います。また、これから自分の力で頑張っていくので自立のスキルも大切だと思います。また大学在学中ではいろんな体験、経験をして多様な価値観を知ってほしいです。

感想

電気工学科4年 高城 凜

私はこのインタビューで初めて劉先生とお話をさせていただきました。特に印象に残ったのは、座右の銘の「少しずつ前に進もう」という言葉です。つい周りに流され、焦ってしまいがちですが、自分のペースで1歩ずつ進んで行くことが大切だなと思いました。

電気工学科2年 三橋 満咲

劉先生の普段の教員生活で大切にしていることを知ることができ、貴重な時間となりました。学校での勉強はもちろんですが、たくさんの経験をしているような価値観に触れることを大切に大学生活を送っていきたいと思いました。

情報工学科1年 大石 隼人

今回初めて教員インタビューに参加しましたが、先生がとてもフランクな方なのでとても楽しくインタビューを行うことが出来ました。私は英語が苦手ですが、先生が楽しそうに英語について話されているのを見て少しだけ苦手意識がなくなりました。

年間活動報告書

4月

新入生オリエンテーション（当日運営）

新入生オリエンテーションの学生企画は4月3日、4日の2日間で行いました。FIT-joinは「友達作りの企画」を実施し、新入生が仲良くできるのかとても不安でしたが、みんなの協力もあり、無事終わることが出来ました。新入生が楽しそうに会話しているところを見れたことで、やって良かったととても感じる事が出来ました。次回の新入生オリエンテーションも今回の反省を生かしながら良いものを作っていきます！



5月

部科長会での活動報告

5月13日（月）に部科長会にてFIT-joinの2023年度の活動報告、2024年度の活動目標及び学生アンケートによる提案を行いました。

代表の近藤、副代表の板屋、三橋の3名で発表、提案を行いました。FIT-joinでは本学の教育改善を学生の視点から教職員と一緒に考え、教職員と学生をつなぐ活動によって本学での「学びのコミュニティづくり」の役割を担う活動を継続していることや2023年度に行った活動の紹介、2024年度新入生オリエンテーションの結果の報告を行い、2023年度に行った学生アンケートの結果に基づく分析と提案を再度行いました。また、2024年度は昨年度の問題点も踏まえ「学生のスキルアップにつながるような企画を作り上げ、同時にFIT-joinの認知度向上につなげることで、学生から意見を得られやすくする」ことを目標に活動していくことを発表しました。



6月

委嘱状交付

6月24日（月）に教育開発推進機構長の前田先生から、2024年度にFIT-joinとして活動していくメンバーに委嘱状が交付されました。FIT-joinの活動の魅力や身に付く力などの話があり、代表、副代表、メンバーに対して委嘱状が交付されました。その後メンバー、教育開発推進室の職員さんと一緒に交流会（BBQ）を行いました。交流会途中には各プロジェクトチームのリーダーから意気込みの発表を行い、今後の活動へ意識合わせが行われました。



7月

学生アンケート実施期間

7月12日（金）～8月6日（火）に学生アンケートを実施しました。

7月は学生アンケートチームでアンケートの設問検討、作成、実施等を行いました。設問の設計ではまず、アンケートの柱を決め、アンケートの設問の作成を行いました。実施期間では、ポスターの掲示やスタンドの設置、ビラ配りなどを行い、多くの学生の声を拾えるよう呼びかけました。



8月

湯布院研修

8月には初の試みである1泊2日の湯布院研修を実施しました。湯布院研修は①アイスブレイク②アンケート分析のレクチャー③アンケート分析の3つを中心に行いました。特にアンケート分析では各グループがアンケート内容から見える仮説を立て、それをもとに分析を行いました。最終日には各グループがアンケートの分析結果と提案について発表をし、それぞれが様々な観点から現在の福工大の課題や優れたところなどを見つけ、1人では分析できないような検証ができました。この湯布院研修を通して、より一層FIT-joinの団結力がついたと思います。



9月

FDCafé

9月20日（金）「やってみようと思ったきっかけを共有しよう！」をテーマに、第35回FD Caféに参加しました。

今回のFD Caféは、教員と学生が「学びへの動機づけ」に関してグループワークを通して理解を深め、今後の本学における学習者本位の教育の推進、全学的な授業改善につなげることを目的とし開催され、FIT-joinが実施した学生アンケートの結果報告と提案を行いました。結果を基に、教職学で興味、関心を持った事にチャレンジしようと思ったきっかけは何なのか、また、それを続けた理由は何のかなどについて、内発的動機づけと外発的動機づけの関連から見えるものについて共に考えました。学生アンケートの結果と提案内容については、6ページをご覧ください。



年間活動報告書

10月

教員インタビュー

FIT-joinでは教員インタビューを行い、その内容を学内に発信することで学生が先生方や授業・研究に興味を持ち、授業への積極的な参加を促すといった目的があります。今回は学部と教養力育成センターの先生方にインタビューを行い、先生方の授業での工夫・座右の銘や学生への思いなど様々な質問をさせていただきました。このインタビューを通して普段の授業や生活からは分からない先生方の一面や考え方を知ることができました。



11月

立花祭

今年度は、台風の影響で1日目が中止となり2日目の11月3日（日）に、本学の「立花祭」にてFIT-joinがブースを出店しました。ブースでは4種類の揚げパンを販売しました。立花祭当日は、多くの人に購入していただき追加販売分も完売となりました。購入してくださった学生の皆さん、本学の方々、そして本学に足を運んでくださったご来場の皆様、本当にありがとうございました。



今年度の課題を踏まえて、より多くの来場とFIT-joinの知名度向上を目標に来年度も出店します。

11月

Join-Talks

Join-Talksとは参加者が自分の専門分野以外の面白さや大切さを知ること、発表者が自分の意見や考えを発信する能力の向上を目的として、興味関心があることをテーマにスピーチを行うイベントです。

11月25日（月）に第4回Join-Talksを開催しました。この講演には36人（学生：22名、教職員：14名）に参加いただきました。今回は「プレゼンで人に伝える力とは」をテーマとし、学生や教職員を対象にプレゼンという言葉の定義や、プレゼンを行うときに意識すべきポイントなどをお話いただき、学生だけでなく、教職員も自身のプレゼンについて見直すきっかけになれたと思います。

講演では、著名人のプレゼンの紹介があり、プレゼンに正解はなく、様々な方法がある中で、分かりやすく簡潔に相手に意図を伝えることが出来るのが重要となることを学びました。

参加者の声

- プレゼンに自信をつけることが出来そう
- 自身のプレゼンを見直すきっかけになった
- 今後の発表の際に活かしていきたい



11月

FIT-プレセミナー

11月16日(土)に総合型選抜合格者を対象にしたオリエンテーション「FIT-プレセミナー」を実施し、令和7年度に入学予定の65名の高校3年生が参加しました。

このセミナーでは、様々な地域から集まった入学予定者同士の交流や大学での学びについての講義、目標設定・振り返りに関するワークショップ、先輩学生の講話を行いました。

FIT-joinでは、入学予定者同士の交流のパートと先輩学生講話のパートを担当しました。交流のパートでは、自己紹介や新入生オリエンテーションでも行うITOゲームを行いました。また、先輩学生講話のパートでは、2年生の三橋が入学してからの年間スケジュール、時間割の組み方、一日や長期休暇の過ごし方を紹介し、4年生の近藤が4年間の学びとして、授業や研究はもちろん、課外活動にも力を入れることができ、活動を通してプレゼンスキル、リーダーシップ力や課題解決力を学んだことを紹介しました。



12月

FIT学生団体サミット

12月6日(金)5限目に学生団体サミットを開催しました。今回のテーマは「コミュニケーション」です。ワークショップでは、「組織内のコミュニケーションを円滑にするには」という内容で話し合いました。チームに分かれて、参加者が所属している団体のコミュニケーションに関する問題を出し合い、それに対する解決案を考えました。事後アンケートではこれからの学生生活やアルバイト、組織内での活動で今回話し合ったことを活かしていきたいという感想がありました。



FIT学生団体サミット

2024

～コミュニケーション力を活用しよう～

日程：2024年12月6日(金)
時間：16時20分～17時50分
開催場所：E棟3階R1教室
申し込み期日：11月20日(水)



皆さんはコミュニケーション力についてどう考えていますか？

いろんな学生と体験などを交えたグループ活動を行い、今後の学生生活などで活かせることをディスカッションします！

学生団体に所属していない学生でも大歓迎です！
ぜひ、お越しください！

申し込みは以下のformsのURLもしくはQRコードよりお願いします
<https://forms.office.com/r/AH2GVJC8K7>
お問い合わせは教育開発推進室 (092-606-7370)



12月

学生によるカリキュラムレビュー

12月13日(金)に本学で初めてとなる「学生によるカリキュラムレビュー」を実施しました。この取組は本学の卒業予定者が、在学中に履修した科目等について、学生目線から評価と助言を行うことで、今後のカリキュラム改定に繋げていくためのものです。本取組を実施するにあたり、すでにカリキュラムレビューを実施している広島市立大学へ視察に伺い、本学で実施する際の参考にしました。本取組で4年間の振り返りも行うことができ、良い機会になりました。



2025年度活動メンバー募集中！



←詳しくはFIT-join
公式Instagramをチェック！

向日葵の花言葉に「光輝」とあるように
Future Designという雑誌が
輝かしい未来を描いてほしいという思いで、
表紙を制作しました。

FIT-joinの活動が大学全体に行き届き、
大学に関わる全ての人の「光輝」な未来に繋がる
情報誌になってくれたら幸いです。

FIT Fukuoka Institute of Technology
福岡工業大学

発行元：福岡工業大学 教育開発推進機構

〒811-0295 福岡市東区和白東3-30-1 E棟3階

TEL：092-606-7370 FAX：092-606-7379

Mail：e-kaiatsu@fit.ac.jp Web：http://www.fit.ac.jp/

発行日：2025年3月14日

編集・作成：FIT-join(学生FD)・教育開発推進室・FutureDesign制作チーム